

第 1 回課題調査

第Ⅱ部 調査結果の概要

第1章 食・食育

1 食育への関心 (P177)

「食育」に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」(37.9%)と「どちらかといえば関心がある」(38.8%)を合わせた《関心がある》は76.7%であった。

一方、「関心がない」(3.6%)と「どちらかといえば関心がない」(12.3%)を合わせた《関心がない》は15.8%であった。

2 健康的な食事内容の心がけ (P179)

毎日の食生活で、主食・主菜・副菜を組み合わせた健康的な食事内容を心がけているか尋ねたところ、「心がけている」が74.0%であった。

一方、「心がけていない」は、17.7%であった。

3 就寝前に食事をとらないことへの意識 (P181)

就寝前2時間以内に食事や夜食をとらないよう気をつけているか尋ねたところ、「気をつけている」が62.3%であった。

一方、「気をつけていない」は、33.2%であった。

4 朝食を同居の方と食べる頻度 (P183)

複数人でお住まいの1,140人に、朝食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が49.0%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が21.1%であった。

5 夕食を同居の方と食べる頻度 (P185)

複数人でお住まいの1,140人に、夕食を同居の方と食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど毎日食べる」が64.3%で最も多く、次いで「週に2～3日食べる」が14.4%であった。

6 昼食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P187)

一人暮らしの110人に、昼食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が50.0%で最も多く、「週に2～3日食べる」(16.4%)と「週に1日程度食べる」(15.5%)が1割台で続いた。

7 夕食を仲間や友人など複数人で食べる頻度 (P189)

一人暮らしの110人に、夕食を仲間や友人など、複数人で食べる頻度を尋ねたところ、「ほとんど食べない」が56.4%で最も多く、次いで「週に1日程度食べる」が23.6%であった。

8 ゆっくりよく噛んで食べることへの意識 (P191)

ゆっくりよく噛んで食べているか尋ねたところ、「食べている」(13.4%)と「どちらかといえば食べている」(28.9%)を合わせた《食べている》は42.2%であった。

一方、「食べていない」(7.3%)と「どちらかといえば食べていない」(39.5%)を合わせた《食べていない》は46.8%であった。

9 歯と口の健康を保つために気をつけていること (P193)

歯と口の健康を保つために気をつけていることを複数回答で尋ねたところ、「歯みがきをしている」が94.9%で最も多く、「糸つきようじや歯間ブラシを使っている」(54.0%)と「かかりつけ歯科医を決めている」(49.5%)が続いた。

10 食事のマナーを正しくできていることへの意識 (P195)

食事のマナー(いただきます・ごちそうさまのあいさつ、はしの持ち方、料理の並べ方など)を正しくできていると思うか尋ねたところ、「十分できていると思う」(17.2%)と「ある程度できていると思う」(59.0%)を合わせた《できていると思う》は76.2%であった。

一方、「まったくできていないと思う」(2.4%)と「あまりできていないと思う」(17.5%)を合わせた《できていないと思う》は19.9%であった。

11 食べ物を無駄にしないことへの意識 (P197)

食べ物を無駄にしないよう食べ残しや買いすぎなどに気をつけているか尋ねたところ、「ある程度気をつけている」が48.7%で最も多く、次いで「気をつけている」が43.4%であった。

第2章 食の安全・安心

1 食品を購入する際に確認している表示内容 (P199)

食品を購入する際に、確認している表示内容を複数回答で尋ねたところ、「期限表示(消費期限や賞味期限)」が89.6%で最も多く、次いで「原産地や原産国」が73.7%であった。

2 食中毒を予防する上で重要なこと (P201)

食中毒を予防する上で重要なことがらについて、知っていることを複数回答で尋ねたところ、「食品を保存するときは、冷凍庫や冷蔵庫を活用する」が93.0%で最も多く、次いで「調理や食事前によく手を洗う」が82.8%であった。

3 食品を安全に食べるために必要な知識 (P203)

食品を安全に食べるために、必要な知識(例えば、調理や食事前によく手を洗う、生肉はよく加熱するなど)を持っていると思うか尋ねたところ、「持っていると思う」(32.3%)と「ある程度持っていると思う」(56.3%)を合わせた《持っていると思う》は88.6%であった。

一方、「持っていないと思う」(1.0%)と「あまり持っていないと思う」(6.3%)を合わせた《持っていないと思う》は7.4%であった。

第3章 アレルギー疾患

1 アレルギー疾患の増加傾向 (P205)

5年前と比べて、アレルギー疾患（食物アレルギー、気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、花粉症等）の症状のある方が、増えていると思うか尋ねたところ、「増えていると思う」が64.6%で最も多く、次いで「変わらないと思う」が16.2%であった。

2 アレルギー疾患の多様性の認知度 (P207)

アレルギー疾患の原因・症状は様々で、その治療方法も多様であることが、一般的に認識されていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(19.5%)と「どちらかというと思う」(26.7%)を合わせた《そう思う》は46.2%であった。

一方、「そう思わない」(9.3%)と「どちらかというと思わない」(10.6%)を合わせた《そう思わない》は19.9%であった。

3 アレルギー疾患に関する情報の入手 (P209)

例えばアレルギーの症状がある時に、どの診療科を受診すれば良いか等、相談窓口やインターネット等で、信頼できる情報を受け取ることができていると思うか尋ねたところ、「そう思う」(15.0%)と「どちらかというと思う」(26.9%)を合わせた《そう思う》は41.9%であった。

一方、「そう思わない」(11.1%)と「どちらかというと思わない」(10.3%)を合わせた《そう思わない》は21.4%であった。

4 アレルギー疾患の症状のある方が受けられるとよい支援 (P211)

アレルギー疾患の症状のある方がどのような支援を受けられるとよいと思うかを複数回答で尋ねたところ、「医療機関や専門医についての情報の提供」が70.6%で最も多く、次いで「アレルギーの状態に応じた適切な治療」が69.3%であった。

第4章 とともに生きる社会かながわ

1 とともに生きる社会かながわ憲章の認知度 (P213)

とともに生きる社会かながわ憲章を知っているか尋ねたところ、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」が82.0%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が10.8%であった。

2 とともに生きる社会かながわ憲章を知った広報の方法 (P215)

とともに生きる社会かながわ憲章の認知度（問17）で、とともに生きる社会かながわ憲章を「知っている」または、「言葉は聞いたことがある」と回答した199人にとともに生きる社会かながわ憲章を何で知ったかを複数回答で尋ねたところ、「県・市町村の広報誌（県のたよりなど）」が62.3%で最も多く、次いで「ポスター・チラシ等」が47.2%であった。

3 身近で障がい者と接する機会 (P217)

身近で障がい者と接する機会の有無について尋ねたところ、「ある」(33.9%)と「あまりない」(37.3%)がともに3割台であった。

4 障がい者に配慮した行動をとる人 (P219)

5年前と比べて障がい者に配慮した行動をとる人が増えたと思うか尋ねたところ、「かなり増えたと思う」(5.6%)と「ある程度増えたと思う」(34.9%)を合わせた《増えたと思う》は40.5%であった。

一方、「まったく増えていないと思う」(6.0%)と「あまり増えていないと思う」(20.0%)を合わせた《増えていないと思う》は26.0%であった。

5 障がい者への差別・偏見の有無 (P221)

障がい者に対して、障がいを理由とする差別や偏見があると思うか尋ねたところ、「あると思う」(31.1%)と「少しはあると思う」(35.5%)を合わせた《あると思う》は66.6%であった。

一方、「ないと思う」(7.8%)と「あまりないと思う」(15.5%)を合わせた《ないと思う》は23.3%であった。

6 ヘルプマークの認知度 (P223)

見た目で分かりにくい内部障がい等に対して配慮が必要なことを示すヘルプマークを知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が49.3%で最も多く、次いで「知っている」が36.0%であった。

7 希望する手話の学習方法 (P225)

手話を学ぶ場合、どのような方法で学びたいか尋ねたところ、「手話講習会」が30.3%で最も多く、次いで「学びたいと思わない」が10.8%であった。

第5章 東京2020大会等スポーツイベントに関する取組

1 ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることの認知度 (P227)

2019年9月から11月にかけて、ラグビーワールドカップが横浜市で開催されることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が63.4%であった。

一方、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」は、34.3%であった。

2 横浜市で開催されるラグビーワールドカップの観戦意向 (P229)

横浜市で開催されるラグビーワールドカップを直接会場で観戦したいと思うか尋ねたところ、「会場ではなく、テレビ等で観戦したい」が33.8%で最も多く、次いで「観戦したくない」が25.3%であった。

3 オリピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくために有効な方法 (P231)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を盛り上げていくためにどのような方法が有効だと思うか複数回答で尋ねたところ、「大型スクリーン（ライブサイト・パブリックビューイングなど）での競技観戦」が57.8%で最も多く、次いで「横断幕やフラッグ等を使用した会場周辺や街頭での飾りつけ」が47.2%であった。

4 東京2020オリンピック競技大会の観戦意向 (P233)

東京2020オリンピック競技大会を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が51.2%で最も多く、次いで「競技会場に行って観戦したい」が33.9%であった。

5 東京2020パラリンピック競技大会の観戦意向 (P235)

東京2020パラリンピック競技大会を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が57.9%で最も多く、次いで「競技会場に行って観戦したい」が19.1%であった。

6 セーリング競技への興味・関心 (P237)

神奈川県江の島で開催される東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技に興味・関心があるか尋ねたところ、「どちらかといえば興味・関心はない」が44.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば興味・関心がある」が29.8%であった。

7 セーリング競技の観戦意向 (P239)

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技を観戦したいと思うか尋ねたところ、「テレビ等、自宅で観戦したい」が45.6%で最も多く、次いで「観戦するつもりはない」が36.6%であった。

8 道路混雑緩和の呼びかけの認知度 (P241)

江の島周辺における道路混雑を緩和するため、今年の夏に、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことに関する呼びかけが行われていることを知っているか尋ねたところ、「知っている」が27.8%であった。

一方、「知らなかった（今回の調査で初めて知った）」は、69.8%であった。

9 道路混雑緩和に向けた取組への協力意向 (P243)

東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催時に、江の島周辺の混雑が予想されるため、自動車利用を控え、公共交通機関を使うことへの呼びかけがあった場合、協力しようと思うか尋ねたところ、「自動車から公共交通機関へ移動手段を変更することに協力しようと思う」が51.4%で最も多く、次いで「呼びかけとは関係なく、公共交通機関で移動する（自動車の利用は考えていない）」が33.9%であった。

第6章 水源環境保全・再生の取組

1 水源地域の森の働きへの関心 (P245)

水源地域の森の働きについて、知識や関心があるか尋ねたところ、「知識はないが、関心はある」が70.2%で最も多かった。

2 環境保全・再生に関わる問題への関心 (P247)

水源地域の環境の保全・再生に関わる問題について、特に関心があるものを尋ねたところ、「森林の荒廃」が39.9%で最も多く、次いで「河川の水質汚濁」が29.1%であった。

3 水源環境保全・再生のために特に力を入れるべき取組 (P249)

水源地域の環境の保全・再生のために、特に力を入れて取り組む必要があると思うことを尋ねたところ、「森林の保全・再生」が37.8%で最も多く、次いで「生活排水対策」が18.9%であった。

4 水源環境保全税の認知度 (P251)

神奈川県では、「水源環境保全税」として個人県民税の超過課税をしていることを知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が74.3%で最も多く、次いで、「税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことは知らなかった」が14.8%であった。

5 水源環境保全税を財源とした対策の認知度 (P253)

水源環境保全税を財源としたそれぞれの対策が行われていることを知っていたか尋ねたところ、「知っていた」では、「水源環境への負荷軽減」が15.0%で最も多く、「河川の保全・再生」(14.8%)と「森林の保全・再生」(13.7%)が1割台で続いた。

一方、「知らなかった」は、「相模川水系上流域の県域を越えた連携」が86.2%で最も多かった。

6 水源環境保全税を財源とした対策の重要度 (P257)

水源環境保全税を財源としたそれぞれの対策を今後も継続することについて重要だと思うか尋ねたところ、「重要である」では、「森林の保全・再生」が81.9%で最も多く、次いで「水源環境への負荷軽減」が80.4%であった。

7 水源環境保全税を財源とした取組への意見 (P261)

水源環境保全税を財源にした水源環境保全・再生の取組について、今後どのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「現在の取組を継続し、税額は変更しない」が61.1%で最も多く、次いで「さらに取組を進め、そのために税額が増えることもやむを得ない」が20.4%であった。

第7章 神奈川県の農林水産業

1 「地産地消」の取組の重要度 (P263)

県内の農林水産業を活性化する上で、「地産地消」の取組を重要だと思うか尋ねたところ、「重要だと思う」(54.5%)と「どちらかといえば重要だと思う」(32.9%)を合わせた《重要だと思う》は87.4%であった。

一方、「重要だと思わない」(2.5%)と「どちらかといえば重要だと思わない」(1.9%)を合わせた《重要だと思わない》は4.4%であった。

2 農林水産物を購入する際に重視する点 (P265)

農林水産物を購入する際に、何を重視するか複数回答で尋ねたところ、「鮮度」が82.1%で最も多く、「価格」(59.3%)と「安全性」(58.5%)が約6割で続いた。

3 「かながわブランド」の認知度 (P267)

「かながわブランド」という言葉を知っているか尋ねたところ、「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らなかった」が46.4%で最も多く、次いで「言葉も内容も知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が29.1%であった。

4 神奈川県の農業に期待する役割 (P269)

神奈川県の農業にどのような役割を期待するか尋ねたところ、「安全・安心な食料の供給」が63.1%で最も多く、次いで「食料の安定供給」が16.1%であった。

5 将来の神奈川県の農業に対する考え (P271)

将来の神奈川県の農業をどのようにしたらよいと思うか尋ねたところ、「今後も様々な形で県が農業を振興することが必要である」が81.0%で最も多かった。

6 県内にある農地の保全に対する考え (P273)

県内にある農地の保全について、どのように思うか尋ねたところ、「まとまった規模の農地であれば、積極的に保全すべき」が36.1%で最も多く、「どちらかといえば農地を保全するほうが望ましい」(27.5%)と「すべての農地を積極的に保全すべき」(24.3%)が2割台で続いた。

第8章 持続可能な開発目標 (SDGs)

1 「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」の認知度 (P275)

「SDGs (エス・ディー・ジーズ)」という言葉を知っているか尋ねたところ、「知らなかった(今回の調査で初めて知った)」が76.7%であった。

一方、「知っている」は、18.5%であった。

2 SDGsの普及啓発物やイベントの認知度 (P277)

神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて見聞きしたことがあるか尋ねたところ、「見聞きしたことがある」が8.0%であった。

一方、「見聞きしたことはない」は、88.6%であった。

3 見聞きしたことがあるSDGsの普及啓発物やイベント (P279)

SDGsの普及啓発物やイベントの認知度(問45)で「見聞きしたことがある」と回答した101人に、神奈川県が作成したSDGsのチラシなどの普及啓発物や、神奈川県が行ったイベントについて知っているものを複数回答で尋ねたところ、「県のたより」が63.4%で最も多く、次いで「かながわプラごみゼロ宣言(チラシ)」が36.6%であった。

4 SDGs達成に向け行いたい取組 (P281)

SDGs達成に向けて、行いたいと思う取組を複数回答で尋ねたところ、「買い物にはマイバッグを持参する」が77.2%で最も多く、「食事は残さず食べる」(67.5%)と「モノをできるだけ長く、大切に使う」(65.3%)が続いた。

第9章 子どもの貧困対策

1 「子どもの貧困」の言葉の意味の認知度 (P283)

「子どもの貧困」の言葉の意味を知っているか尋ねたところ、「言葉の意味を知っている」が65.0%で最も多く、次いで「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が25.8%であった。

2 身近で支援を必要とする子どもの有無 (P285)

身近(近所や職場、知人、親戚など)に、経済的に苦しく行政等による支援が必要だと思われる子どもがいるか尋ねたところ、「いる」が6.6%であった。

一方、「いない」は、61.8%であった。

3 世代を超えた貧困の連鎖 (P287)

貧困は世代を超えて連鎖している(貧困の状態で育った人の子どもも貧困におちいってしまう)と思うか尋ねたところ、「そう思う」(36.3%)と「どちらかといえばそう思う」(27.4%)を合わせた《そう思う》は63.7%であった。

一方、「そう思わない」(8.5%)と「どちらかといえばそう思わない」(2.5%)を合わせた《そう思わない》は11.1%であった。

4 行政等による支援が必要な子ども (P289)

どのような子どもに対して行政等による貧困対策の支援が必要だと思うか複数回答で尋ねたところ、「児童福祉施設などに入所している子ども」が65.3%で最も多く、次いで「ひとり親世帯の子ども」が60.1%であった。

5 子どもの貧困対策に関連する施策の充実度 (P291)

子どもの貧困対策に関連する神奈川県の実策が、子どもの貧困問題の解消のために十分だと思
うか尋ねたところ、「そう思う」(13.0%)と「どちらかといえばそう思う」(19.9%)を合わせ
た《そう思う》は32.9%であった。

一方、「そう思わない」(14.7%)と「どちらかといえばそう思わない」(9.7%)を合わせた《そ
う思わない》は24.4%であった。

6 子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援 (P293)

子どもの貧困対策として重要だと思う家庭等への支援はどのようなものか複数回答(3つまで
選択可)で尋ねたところ、「子どもの就学にかかる費用の軽減(小学校・中学校・高校)」が40.6%
で最も多く、次いで「子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること」が33.3%で
あった。

7 地域の支援活動に対する考え方 (P295)

貧困などの困難な環境にある子どもを身近な地域で支援する活動(学習支援や居場所の提供等)
について、どのように考えているか尋ねたところ、「これから考えたい」が30.1%で最も多く、
次いで「活動を行うことや協力することは難しい」(22.4%)と「活動に興味を持っている」(19.8%)
が続いた。

第10章 治安対策

1 不安を感じる犯罪 (P297)

身近で発生する可能性のある犯罪のうち、不安を感じるものを複数回答で尋ねたところ、「空
き巣」が63.4%で最も多く、次いで「インターネットを利用した犯罪(詐欺、ネットポルノ、児
童買春など)」が52.6%であった。

2 身近な治安に関して最も安心感を抱くとき (P299)

身近な治安に関して、最も安心感を抱くときはどのようなときか尋ねたところ、「身近な事件、
事故が解決したとき」が30.0%で最も多く、次いで「制服警察官がパトロールしているとき」が
29.7%であった。

3 犯罪発生情報や防犯に役立つ情報を得やすい方法 (P301)

地域の犯罪発生情報や防犯に役立つ情報について、情報を得やすい方法を複数回答で尋ねたと
ころ、「テレビ」が76.6%で最も多く、次いで「インターネット(警察のホームページ、Twitter、
「Yahoo!防災速報」、神奈川県警察公式YouTube防犯チャンネル等)」が49.4%であった。

4 犯罪がなく安心して暮らすために最も重要だと思うもの (P303)

犯罪がなく、より安心して暮らすために最も重要だと思うものを尋ねたところ、「防犯カメラ等の防犯設備の整備」が 33.9%で最も多く、次いで「地域住民同士のつながり」が 28.5%であった。

5 交通事故のない社会を目指すために重要だと思うもの (P305)

交通事故のない社会を目指すために重要だと思うものを複数回答で尋ねたところ、「交通安全施設の整備（信号機、道路標識・標示等）」が 50.6%で最も多く、次いで「白バイやパトカーによる警戒」が 44.6%であった。